

FD 報告書 (2 0 0 5 年度第 4 回)

日 時 : 2 0 0 6 年 1 月 1 8 日 (水)

場 所 : 国際言語文化棟 A 会議室

報告者 : 福田真人 (名古屋大学大学院国際言語文化研究科)

報告題 : 英国オックスフォード大学における医学史教育について

付録 : 伝染病予防法と梅毒病院の建設について

まず英国オックスフォード大学医学史研究所の構成、研究体勢、学生指導の方法などの一般的説明があった。所長 1 , 副所長 1 , 研究員 6 , 客員研究員 2 , 秘書 2 の計 1 2 名の構成。またその教育の特徴としてのチュートリアル・システムの意義などについても言及があった。Tutorial system とは、一人の教員が、1 - 3 人の学生にエッセーを書かせ、自分の前で読ませ、価値判断を下すという直接的教育方法で、今後日本でも緻密な教育にはなんらかの参考になる方法であろう。1 人の教員が、3 - 5 人の指導生を担当する用になっている。

さらに、スタッフ・セミナーの解放性とその学問的意見交換の自由さが論じられ、名古屋大学でもかかるシステムが採用されるよう提案が為された。スタッフ・セミナーとは、研究所所員ならびに客員研究員あるいは同じ研究テーマを持っている研究者を呼んで、公開で研究成果を公表するもので、年間 3 つの学期があるが、その各学期ごとに共通テーマを決め、それに沿って講義する講師を決め、学期を通して講義する形式である。そのテーマの実例としては、「医学と疾病」、「軍隊と医学」などがある。

研究実例としての話は以下の通り。

1 9 世紀の国民国家誕生と共に、国家による国民の健康の管理が始まった。そのよい例が 1 8 6 4 年に英国で実施された伝染病予防法 (Contagious Diseases Act, 1866, 69) であろう。伝染病予防法とはいよいよ、実は性病予防法で、主に陸海軍の軍人を性病から守るためのものであった。その梅毒検査対象は娼婦に限られたが、やがて軍人のいる町での娼婦以外の強制検査が始まり、そこに女性の権利を守るとする運動が始まる機運があった。そうした英国海軍での強制的性病撲滅運動の下で日本に派遣されてきたのが、海軍軍医ニュートン (George Bruce Newton, 1829-71) である。彼がどのような医学教育を受け、どのような命令の下に横浜に日本最初の梅毒病院を建設したかを追究した。

日本での性病 (現在は性感染症) の現実と、その対策、また文化史研究の一環としての医学史研究だけではなく、医学者のための医学史教育の提案も為された。